

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	開智国際大学
設置者名	学校法人開智学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
教育	教育	夜・通信	4	0	59	63	13	
国際教養	国際教養	夜・通信		2	69	75	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバスによる表示（キーワード検索を「実務経験」で検索） <a href="https://www.kaichi.ac.jp/syllabus/">https://www.kaichi.ac.jp/syllabus/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	開智国際大学
設置者名	学校法人開智学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人開智学園ホームページ（情報公開→役員等名簿）  
<https://www.kaichigakuen.ed.jp/wp-content/files/2021yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元都立高等学校職員・教諭	令和3年3月30日～ 令和5年3月29日	運営全般を担当
非常勤	東京都中央区区長	令和3年3月30日～ 令和5年3月29日	運営全般を担当
非常勤	税理士	令和3年3月30日～ 令和5年3月29日	財務担当
非常勤	元三菱マテリアル株式会社 社友	令和3年3月30日～ 令和5年3月29日	運営全般を担当
非常勤	株式会社進研社 USA 代表取締役	令和3年3月30日～ 令和5年3月29日	運営全般を担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	開智国際大学
設置者名	学校法人開智学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業計画(シラバス)の作成過程 授業概要、到達目標、授業の進め方、成績評価(評価方法、評価基準)教科書、受講学生への受講ポイントの表示、授業計画(授業内容、事前事後学修内容)を表示している。</li> <li>• 授業計画の作成・公表時期 11月から教員ポータルサイトを利用してシラバスを作成する。12月から翌年1月にかけて、学内委員によるシラバスチェックを行い、3月中旬にポータルサイトに掲載する。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	シラバス公開ページにて公開する。 <a href="https://www.kaichi.ac.jp/syllabus">https://www.kaichi.ac.jp/syllabus</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は筆記試験のほか、発表、レポート、小テスト、授業への参加・協力、出席など多岐にわたる評価方法を「学習の成果に係る評価」に示すとともに、さらにディプロマポリシーをすべてのシラバスに表記することにより、各担当教員が評価内容と関連付け適格な評価方法を設定し、厳格かつ適正に単位を認定している。</p> <p>学修の成果に係る評価 <a href="https://www.kaichi.ac.jp/2022/grade-evaluation/">https://www.kaichi.ac.jp/2022/grade-evaluation/</a></p> <p>シラバス(全学部の目次) <a href="https://www./kaichi.ac.jp/syllabus/">https://www./kaichi.ac.jp/syllabus/</a></p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- GPAの客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法など）

区分	合格			不合格		
	100-90点	89-80点	79-70点	69-60点	59-40点	39点以下 評価対象外
評価	S	A	B	C	D	E
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	0.0

GPの合計/総履修登録単位数=GPA

- 客観的な指標の適切な実施状況  
上記で設定した算出方法によりGPA値を算出している。

客観的な指標の算出方法の公表方法

学生用学部別ガイドブックにそれぞれ GPA 制度、GPA 計算方法及び就職活動、奨学金、特待生の継続に影響が及ぶことを具体的に示している。

<https://www.kaichi.ac.jp/2022/grade-evaluation/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- 卒業の認定に関する方針の具体的な内容  
4 年以上在学し卒業に必要な単位を修得した学生は卒業が認定され、学士(教育学)または学士(国際教養学)の学位を授与する。
- 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況  
3 月上旬に「卒業判定教授会」を設定し、4 学年全員の修得単位数等について、卒業要件に合致している者に卒業を認定する。  
認定した学生には卒業決定通知及び成績表を送付する。

卒業の認定に関する方針の公表方法

本学 HP(教育情報の公開)に「卒業の認定に当たっての基準(必修・選択別の必要修得単位数及び取得可能学位)」として公表している。

<https://www.kaichi.ac.jp/2022/graduation/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	開智国際大学
設置者名	学校法人開智学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人開智学園ホームページ(公開情報→事業・財務報告) <a href="https://www.kaichigakuen.ed.jp/information-disclosure/">https://www.kaichigakuen.ed.jp/information-disclosure/</a>
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページに「年次報告書」として各年度の結果を報告している。 <a href="https://www.kaichi.ac.jp/publication/">https://www.kaichi.ac.jp/publication/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:
-------

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
<p>教育研究上の目的（（公表方法：本学 HP「教育情報の公表」の「学部、学科の名称及び教育研究上の目的」に「教育の目標」として示している。）  <a href="https://www.kaichi.ac.jp/department/edu/">https://www.kaichi.ac.jp/department/edu/</a></p>
<p>（概要）教育を通して社会に貢献する使命感を持ち、教育に対する深い理解と専門的な知識並びに実践的指導力を有し、新しい教育的な課題に対応できる教育者の養成</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 HP「大学案内」の「教育理念と 3 つのポリシー」）  <a href="https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/">https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/</a></p>
<p>概要）          上記の目標達成のため、以下の 5 つの必要な資質、学力、能力をそなえ、所定の単位を取得した学生に学位を与えている。          1.基本的な学力、国際的な視野、教養、知性を伸ばし、合わせて、社会貢献する強い意志と倫理観を身につけている。          2.コミュニケーション力、情報収集・活用力をのばし、自律的に学ぶ力、自己研鑽力を身につけている。          3.児童・生徒理解、自己理解、他者理解できる心理学的なスキルを修得している。          4.専門的な教育学の知識全般を修得し、クリティカルシンキング、創造的思考力、問題解決力を身につけている。          5.「アクティブ・ラーニング」「ICT の活用」「実践的道德教育」「特別に支援が必要な児童生徒への対応」などの指導力を身につけ、初等教育専攻のものにあっては「さまざまな教科の幅広い知識と指導力」、中等教育専攻のものにあっては「専門教科に関する高い知識と指導力」を修得している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 HP「大学案内」の「教育理念と 3 つのポリシー」）  <a href="https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/">https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/</a></p>
<p>（概要）          上記（ディプロマポリシー）の理念に基づき、高い専門性と倫理性を有する教育者を育成するため、豊かな人間性の涵養を目指す「共通科目」と、専門的な方法論や知識の修得を目指す「専門科目」を設け、段階的・体系的に学べるよう教育課程を編成しています。          基礎教養とコミュニケーション能力の修得（共通科目）          1.国際的視野、教養・知性の育成：「リベラルアーツ基礎（人文科学・社会科学・自然科学・外国語・総合）」「スポーツ／健康」「情報」といった幅広い教養科目を設け、基礎教養の修得を目指します。          2.コミュニケーション能力の育成：1～2 年次に、ネイティブスピーカーによる英語教育を必須科目として設け、読む・書く・聞く・話す（Reading、Writing、Listening、Speaking）の 4 つのスキルの修得を習熟度別クラスで目指します。また、「論理的思考／表現」では、論理的に思考し表現することを徹底的に訓練しながら、論点を整理し、的確に伝える力の育成を目指します。          変化に対応できる専門性の修得（専門科目）          専門科目は、専門的な方法や知識を体系的に学び、それぞれの専門分野で必要な知識を理解・活用できるようにするため、「教育の基礎」、「教育を支える心理学」、「教育者としての専門性」、「教科の基礎」（「児童教育の専門科目」「英語教育の専門科目」「国語教育の専門科目」）、「教職科目（小学校、中学校・高等学校、共通）」、「ゼミナール」を設けています。          1.カウンセリングマインドの育成：「教育を支える心理学」という科目群を通して、児童</p>

<p>生徒一人ひとりの発達段階に応じた集団指導・個別指導の在り方を学び、状況に応じた的確な判断ができる基本的なコミュニケーションスキルを身につけます。子どもの心理を理解することで、「いじめ」「不登校」「問題行動」などの現状分析や対策を考えられる力を養います。</p> <p>2.専門的知識の育成：「教育の基礎」、「教育者としての専門性」及び「教科の基礎」という科目群を通して、職業人としての教員について具体的なイメージを獲得し、各専攻に必要な専門知識と実践力を養っていきます。</p> <p>3.実践的指導力の育成：「教職科目」及び「ゼミナール」を通して、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科の目標・内容を、児童生徒の実態を踏まえて、計画し、学習指導案を作成・実行できる力を養います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 HP「大学案内」の「教育理念と3つのポリシー」）<a href="https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/">https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/</a></p> <p>（概要）</p> <p>上記、教育研究上の目的を達成するために教育を学ぶものとしての目的意識と情熱、使命感を持ち、自ら学び、考え、自分の責任で行動できる学生を求める。</p> <p>1.国際的な視野に立ち、高等学校までの教科・科目や学校の諸活動を通じた学びで身につけた、基本的な学力、知識を有し、初等教育専攻の者にとっては、すべての科目について幅広い学力と知識を有する者。中等教育専攻の者にとっては、すべての科目に一定以上の学力と知識を有し、かつ国語もしくは英語において優れた学力、知識を有する者。</p> <p>2.人の意見を理解、尊重し、自分の意見や考えを論理的に述べることができ、日本語の高いコミュニケーション力を持ち、かつ英語でのコミュニケーション力を伸ばしたいという意欲のある者。</p> <p>3.児童・生徒の心や自己、他者を理解しようとする意欲を持ち、カウンセリングマインドについて関心のある者。</p> <p>4.教育を専門的に学ぼうとする意志があり、柔軟でクリティカルな思考力や問題解決力などの素地をもっている者。</p> <p>5.教育の課題に対する認識を持ち、地域や社会の環境や状況に関心を注ぎ、実践的な指導力を身につけ、教育を通して社会に貢献する情熱と意欲を持った者。</p>
<p>学部等名 国際教養学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：公表方法：本学 HP「教育情報の公表」の「学部、学科の名称及び教育研究上の目的」に「教育の目標」として示している。） <a href="https://www.kaichi.ac.jp/department/il/">https://www.kaichi.ac.jp/department/il/</a></p> <p>（概要）</p> <p>日本を学び、異文化を学び、グローバル社会に対応できる英語を学ぶことによって、それらを基盤として社会に貢献できる能力を持つ人材の養成</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 HP「大学案内」の「教育理念と3つのポリシー」）<a href="https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/">https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/</a></p> <p>（概要）</p> <p>教育研究上の目的に基づき、以下のような人材が所定の単位を取得した場合に、学士（国際教養学）の学位を与えています。</p> <p>1.国際人としてのアイデンティティを確立し、異文化に柔軟に対応するグローバルリテラシーを有する人材</p> <p>2.さまざまな専門領域を横断する知識と多角的視点を有する教養豊かな人材</p> <p>3.高い対人関係能力・コミュニケーション能力を有する人材</p> <p>4.常に社会に関心をもち、高い職業意識と自己管理能力を有する人材</p> <p>5.自由な発想で問題発見・問題解決能力を有し、時代の変化に適応できる人材</p> <p>6.上記の能力を発揮して、グローバル社会に貢献できる人材</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 HP「大学案内」の「教育理念と3つのポリシー」）<a href="https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/">https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/</a></p>

(概要)

上記(ディプロマポリシー)のような人材育成のため、(1)共通科目をおき、幅広い基礎教養の修得を目指すとともに、(2)専門科目として4つのクラスター(理解科目群)を設け、横断的な知識(パースペクティブ)の修得と活用を促しています。また(3)各科目には、配当年次や学修レベルが設定されており、段階的に学べるよう教育課程を編成しています。英語教育と基礎教養の充実(共通科目)

1~2年次に、ネイティブスピーカーによる英語教育を必須科目として設け、読む・書く・聞く・話す(Reading、Writing、Listening、Speaking)の4つのスキルの修得を習熟度別クラスで目指します。また、「論理的思考/表現」「リベラルアーツ基礎(人文科学・社会科学・自然科学・外国語・総合)」「キャリア」「スポーツ/健康」「情報」といった幅広い教養科目を設け、基礎教養の修得を目指します。

4つの理解科目群とパースペクティブ(専門科目)

専門科目として、1年次から「国際教養」や「ゼミナール」を通して国際教養を学ぶ基軸を構築し、「人間理解」「地域・経済」「文化・言語」「国際社会」といった4つの理解科目群を通して、ハイレベルな教養(Human Studies, Social Studies, Local & Regional Studies, Global Studies という4つの観点)の修得と活用を目指します。理解科目群の概要は以下のとおりです。

1.人間理解科目群：グローバル社会の構成員としての人間の心理的メカニズムの理解を学び、現代社会が我々の心に及ぼす影響を発達、教育、パーソナリティ、医学、宗教、死生観など、人に関わるさまざまな観点から人間を探索し、現代社会における「人」を理解することを目指します。

2.地域・経済理解科目群：グローバル社会におけるコミュニティの形成と役割や機能について、家族、学校、産業、労働、経済、経営、法律など、いわゆる社会科学領域から幅広く学修し、生活の基盤としての地域社会がどのように人と人を結びつけているかといった社会の仕組みについての理解を目指します。

3.文化・言語理解科目群：グローバル社会における多種多様な価値観を文化、文学、言語、芸術、歴史などを通して学び、境界を越えた国や地域のバックグラウンドの違いや価値を理解し、グローバルな価値観を再構築することを目指します。

4.国際社会理解科目群：グローバル社会における情勢の変化を、国際経済、国際法、国際貢献、情報、メディアなどの観点から学び、グローバル社会における現実問題としての世界の動きを理解し、新たなグローバル化の姿を模索し、それに対応するスキルを獲得することを目指します。

学びの時期と水準(配当年次と学修水準)

国際教養学部では、さまざまな学問領域を横断的に学ぶ「横の広がり」と、それを段階的に学ぶ「縦の序列」を大切にしています。そのため、各科目には配当年次として履修が推奨される学年と、学修水準として「入門」「中級」「上級」のレベルが設けられています。国際教養という特質からして、直線的でも、円環的でもなく、螺旋的に学びを極めていけるよう、教育課程を編成しています。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：本学HP「大学案内」の「教育理念と3つのポリシー」)<https://www.kaichi.ac.jp/about/policy/>

(概要)

教育研究上の目的に基づき、以下に掲げる特性を有する者を求める。

- 1.人間やその営為に対して幅広い関心を有する者。
- 2.現代社会における課題の発見と解決に積極的に貢献しようとする意欲を有する者。
- 3.国際英語に関心を有する者。
- 4.ディスカッションに積極的に参加できる者。
- 5.自分の言葉で自分の考えを述べることのできる者。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：HPに掲載している。

<https://www.kaichi.ac.jp/2020/soshiki/>



③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
教育学部	—	13人	6人	3人	0人	0人	22人
国際教養学部	—	10人	4人	2人	1人	0人	17人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		56人					56人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 教育学部： <a href="https://www.kaichi.ac.jp/teacher_edu/">https://www.kaichi.ac.jp/teacher_edu/</a> 国際教養学部： <a href="https://www.kaichi.ac.jp/teacher_il/">https://www.kaichi.ac.jp/teacher_il/</a>					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	130人	58人	44.6%	346人	279人	80.6%	0人	0人
国際教養学部	90人	65人	72.2%	324人	293人	90.4%	0人	0人
合計	220人	123人	55.9%	670人	572人	85.4%	0人	0人
（備考）令和5年4月定員変更 教育学部 72人→130人 国際教養学部 78人→90人								

b.卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
教育学部	72人 (100%)	0人 (0%)	63人 (87.5%)	9人 (12.5%)
国際教養学部	68人 (100%)	0人 (0%)	57人 (83.8%)	11人 (16.2%)
合計	140人 (100%)	0人 (0%)	120人 (85.7%)	20人 (14.3%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項）				
（備考）				

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>概要)</p> <p>各シラバスに授業概要、到達目標、授業の進め方、成績評価(評価方法、評価基準)、教科書の指定、受講学生への受講ポイントの表示、授業計画(授業内容、事前事後学修内容)を表示している。</p> <p>シラバス</p> <p><a href="https://www.kaichi.ac.jp/syllabus/">https://www.kaichi.ac.jp/syllabus/</a></p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>概要)</p> <p>4年以上在学し卒業に必要な単位を修得した学生は卒業が認定され、学士(教育学)または学士(国際教養学)の学位を授与する。</p> <p>3月上旬に「卒業判定教授会」を設定し、4学年全員の修得単位数等について、卒業要件に合致している者に卒業を認定する。</p> <p><a href="https://www.kaichi.ac.jp/2022/graduation/">https://www.kaichi.ac.jp/2022/graduation/</a></p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	教育学科	126 単位	有・無	単位
国際教養学部	国際教養学科	126 単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kaichi.ac.jp/life/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
教育	教育	900,000円	250,000円	80,000円	
国際教養	国際教養	900,000円	250,000円	80,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) <a href="https://www.kaichi.ac.jp/zaigaku/">https://www.kaichi.ac.jp/zaigaku/</a>
b.進路選択に係る支援に関する取組 (概要) <a href="https://www.kaichi.ac.jp/career/edu/">https://www.kaichi.ac.jp/career/edu/</a>
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) <a href="https://www.kaichi.ac.jp/life/consultation/">https://www.kaichi.ac.jp/life/consultation/</a> <a href="https://www.kaichi.ac.jp/life/health/">https://www.kaichi.ac.jp/life/health/</a>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： <a href="https://www.kaichi.ac.jp/research-info/research-memoirs/">https://www.kaichi.ac.jp/research-info/research-memoirs/</a>
---

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F112310102388
学校名	開智国際大学
設置者名	学校法人開智学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		76人	78人	78人
内 訳	第Ⅰ区分	57人	54人	
	第Ⅱ区分	14人	19人	
	第Ⅲ区分	5人	5人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				78人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	1人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	1人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	3人		
3			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	6人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	6人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。